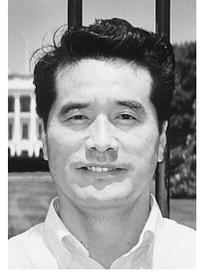


音楽で楽しむ英語の世界



藤澤文洋

■年度初めのオープニング曲はこれ！

毎年年度初めの授業でこの曲を聴かせる。生徒に歌詞と楽符をプリントで配布して、メロディーを知っていたら挙手するようにと言っても、ほとんど手が上がらない。

Mine eyes have seen the glory of the coming of the Lord. / He is trampling out the vintage where the grapes of wrath are stored. / He hath loosed the fateful lightning of his terrible swift sword. / His truth is marching on. / Glory, glory, Hallelujah! / Glory, glory, Hallelujah! / Glory, glory, Hallelujah! / His truth is marching on.

(神の栄光がやってくるのをこの目は見た。怒りのぶどうを収めにやってくるのを。光のごとく剣を抜き放ち、正義の神は行進する。グローリ、グローリ、ハレルヤ！ [以下繰り返し] 正義の神は行進する。)

聴く前に曲の紹介もする。1861年12月、ジュリア・ウォード・ハウ夫人はワシントンで開かれたパーティーに出席していた時、外を行進する兵隊たちが歌う曲を聴いて感銘を受けた。この経験をもとに詩を書いて、それがこの曲の歌詞になり、今日ではアメリカの国民歌の一つであると。

聴いている途中にうなづく生徒も出始め、聴き終わった後また聞くと今度はほとんど手が上がる。そう、南北戦争当時に歌われた「リパブリック賛歌 (Battle Hymn of the Republic)」である。

家電量販店のコマーシャルソングでもあり、「ま〜るい緑の山手線、真ん中通るは中央線、新

宿西口駅の前、カメラは〇〇〇〇カメラ」と口ずさむと、もう全員がわかる。

さらに、日本には「おたまじゃくしはカエルの子、なまずの孫ではないわいな、それが何より証拠には、やがて手が出る、足が出る」とか「太郎さんの赤ちゃんが風邪引いた…」という替え歌もあると紹介してもまったくわからない。「おたまじゃくし」は映画『エレキの若大将』で加山雄三が歌ったりしたものだが、世代の違いを感じる。

しかしアメリカにも替え歌がある。Little Peter Rabbit だ。

Little Peter Rabbit had a fly upon his nose, / Little Peter Rabbit had a fly upon his nose, / Little Peter Rabbit had a fly upon his nose. / So he flipped it. / And he flapped it. / And it flew away.

(小さなピーターラビット、お鼻の上にハエが止まった [以下繰り返し]、それではじき飛ばして、たたいて追っ払ったので、ハエは飛んで逃げちゃった。)

日本でもアメリカでもさまざまな替え歌があるということは、それだけ広く愛唱されていることがわかる。

■アメリカンポップスで楽しむ英語の世界

初任教東京都立豊多摩高等学校（東京都杉並区）時から音楽を取り入れた授業は実施していた（全国英語教育団体連合会の『全英連会誌』1986年号参照）。

私が自分で曲を選ぶこともあったが、生徒が好



きな曲のテープと英語の歌詞を持ってくればいつでも聴いた。毎週さまざまな曲を聴いてしながら音楽の授業のようですらあった。

当時からただ聴くだけではなく、穴埋めのリスニングテスト形式で行なった。2曲ある場合には、1曲目は耳慣らしで2曲目はリスニングテストにした。ブランクを作る条件は3つある。すなわち、①1曲につきブランクを5つ作る、②なるべく上下の単語の語尾と韻を踏む単語を選ぶ、③リピートの部分を1箇所は入れる。①はブランクが少ないとほとんど聴くだけになり多すぎるとゆっくり聴けないため、②は英語の歌も詩であり、語尾は韻を踏むことが多いことを認識させるため、③繰り返し聴くことで徐々に聴き取れるようにするため。

答え合わせをした後、確認のため2度目を聴かせる。カセットテープかCDを使っていたが、2005年2月18日にNHK BS2で4時間生放送された『プレイバック！全米ヒットチャートナンバー1』を録画してから変わった。視聴者からのリクエストに応じて曲を流すのだが、嬉しいことに放送された全47曲が時には舞台裏から始まりフルコーラスで最後の演奏まで完全に流してくれた。音楽を実に大事にしている番組であった。

本校では夏休み最後の平日に中学生を対象に一日体験入学を実施して好評を博している。私は「アメリカンポップスで楽しむ英語の世界」を「メジャーリーグで楽しむ英語の世界」とともに開講しているが、定員いっぱい40名の応募がある。

現在中高生に最も人気があると感じるのは、Aerosmithの *I Don't Want to Miss a Thing* (ミス・ア・シング) である。上記の3つの条件のうち②の例を挙げれば、語尾が韻を踏む“sleeping”と“dreaming”，“together”と“forever”という組み合わせを作り、そのうちの1つをブランクにした。

1回テープで穴埋めのリスニングテストを実施した後、今度は『プレイバック！全米ヒットチャ

ートナンバー1』のビデオを見て映像でも確認する。テーマソングだった映画『アルマゲドン』のシーンも出てくるお宝映像だ。

1970年代以降の年代別人気ナンバーワンは、70年代が *Hotel California* (Eagles)、80年代が *Thriller* (Michael Jackson) で、90年代がこのAerosmithの曲である。*Thriller* は10分以上に及ぶショートフィルムで、このホラームービー(?)を高校生でも無我夢中で鑑賞する。

■年末恒例は「蛍の光」

「蛍の光」は日本では卒業式など別れの歌として知られているが、英米では大晦日に新年のカウントダウンをした後、ワインで乾杯しながら大合唱する歌である。『NHK 紅白歌合戦』のエンディングで毎年歌われるのがこれに近い。

オリジナルの歌詞はスコットランド語である。タイトルは *Auld Lang Syne* すなわち英語では“old long since”となる。

Should auld acquaintance be forgot, / And never brought to mind? / Should auld acquaintance be forgot, / And auld lang syne? / For auld lang syne, my dear, / For auld syne, / We'll take a cup o'kindness yet, / For auld lang syne.

毎年年末には「蛍の光」を聴いてその年の授業を終えるが、『オーシャンズ11』の映画も併せて観る。現在『オーシャンズ13』まで上映された現代版ではなく、フランク・シナトラやディーン・マーチンのオリジナル版(1960年、『オーシャンズと十一人の仲間』)だ。カウントダウン直後にホテルを停電にして皆に「蛍の光」を歌わせその間に大金をせしめるという筋書きだ。チャールズ・チャップリンの『黄金狂時代』(*The Gold Rush*)にも登場する。

これからも生徒たちには音楽を楽しみながら英語の力をつけていってほしいし、自分も一緒に楽しんでいきたいと思う。

(ふじさわ ふみひろ・東京都立八王子東高等学校英語科教諭)